

そこには「いつも伊藤さんに声を掛けてもらっても小声でしか返事ができなかつたけれど、今では大きな声であいさつができるようになりまし」と書かれていました。

また、その場所を通る中学生や高校生とも顔見知りになり、あいさつしてくれるのもうれしいこと。暑さ寒さなど大変なこともありませんが、子どもたちの笑顔に励まされ続けていくそうです。

◇ 東部小学校区の東茂原では自治会の活動として始まりました。この地区は交差点も多く、特に注意が必要です。

下校時にはシニアの男性陣が揃いのベストを着て角々で見守りますが、「代わっても



▲「気をつけてね」

らえる若い人がいないから頑張るしかないよ」との声も…。その中で、朝も見守っているというKさん(女性)は「子どもたちがかわいいから楽しく参加できます。ある時1年生のお子さんが下を向いて歩いていて、電柱に気付かず

ガーン!とぶつかってしまいました。心配だったので、そのお子さんの様子を見つつ、途中まで付き添いました。後に私の家を探して親御さんと一緒にお礼に来て下さったといううれしいことがありました」と話してくれました。

◇ 中の島小学校区では辻で見守りの方々のほかに、緑色のベストに帽子、腕章を着用した高齢者のグループが、下校時の小学生たちに声を掛けながら通学路を歩行巡回。また数分後には別のグループが異なった方向から次々に巡回。こんな活動が平成12年から雨天を除き毎日45分間行われています。

実施のきっかけは、地域の子どもが、車に乗った見知らぬ人から欲しい物を買ってあげると声を掛けられたこと。

それを知った小学校から、中の島連合自治会に相談があり、事件から3日後には16人で活動を開始。

その後、中の島防犯ボランティアの会を結成し、現在は30人余りで活躍中です。参加している人たちからは

芸術の秋を訪ねよう

名作映画を大画面で!

11月15日(金)

『野菊の墓』

『伊豆の踊子』

11月16日(土)

『時をかける少女』

『ぼくらの七日間戦争』

上映時間など詳しくは、15ページをご覧ください。

岡東部台文化会館

☎(23)8711

一人の画家が生まれるには

美術館・郷土資料館では、

美術企画展「速水御舟、吉田

善彦の系譜と郷土の日本画家

林功展」を開催、好評裏に

終了しました。

毎日の活動が健康維持にもなり、仲間たちとのふれあいが楽しいという声が聞かれます。

* * *

今回ご紹介した皆さんは情熱と誇りを持って活動されていきました。

この展覧会では、3人の画家の師弟関係にスポットを当てた内容でしたが、林功が絵を始めたきっかけは、何だったのでしょうか?

これには、小学校時代の親友の存在があったのです。それは、同級生の石井敏博さんという方で、小学校時代、一緒に近隣の寺院へ仏像を見に行く仲でした。しかし、この石井さんは、中学3年の夏に急死してしまつたのです。以降、林功は、どんなに忙しい時であっても、必ず命日に彼の墓参りを続け、決まつてリンドウの花を供えていたという事です。

林功の没後に見つかった記述には、「…成績優秀、野球部ではエース…類稀な資質を

もつた友人が亡くなった。…この日が大きな原点のひとつとなった。…石井の分も生きることでの大きな友を忘れないでいようと今でも思い続けている。」と書かれています。

石井敏博さんの父親、良三さんは、なぜこんなに友情が厚いのか、生前の林功に尋ねたそうです。すると、「石井君は絵がうまかつたから、これに触発されて絵を好きになつた」と答えたとのことでした。



▲山鳩図

そして、林功が芸大卒業のころ、親友石井敏博さんをして、親で両親に差し上げた作品が「山鳩図」で、現在は美術館に収蔵されています。

現在開催中の「林功展」横の会出品作品を中心に「(10月27日まで・入場無料)」では、林功の初期のエピソードを中心にご覧いただけます。

岡美術館・郷土資料館

☎(26)2131

◆「ハロータウン」は、「広報もばら」7月1日号、10月1日号、1月15日号の中に折り込んで発行しています。